はじめに　3
初出一覧　5

第一部　室町時代と壬辰倭乱期の日朝交流――11

一章　朝鮮王朝初期の日本事情探索と対日認識――「通信使」の登場まで　12
二章　朝鮮前期の日朝外交と京都五山――天龍寺と李藝などの事跡を中心に　39
三章　鼻（耳）塚再論――朝鮮通信使と日本人のまなざし　63

第二部　江戸時代の日朝交流――93

一章　江戸時代知識人の壬辰倭乱批判――貝原益軒と乳井貢の場合　94
二章　朝鮮国礼曹参判書契の所在と伝世――久世家旧蔵新出史料を中心に　112
三章　篆刻家・沢田東江と「多胡碑」の伝播　139
四章　日韓文化交流史と朝鮮通信使　153
五章　記録文学としての朝鮮通信使「使行録」の東アジア的普遍性　169

第三部　朝鮮通信使の残した文化財と足跡

一　伏見稲荷とオランダ人・朝鮮人、そして朝鮮通信使人形　202
二　今市（日光市）の客館跡碑　207
三　京都黒谷栄摂院の通信使扁額　209
四　近江・崇徳寺　趙泰億の扁額　213
五　正徳元年の人足賃金割賦史料　217
六　新井白石と大明皇帝勅書　220
七　享保度通信使への京都所司代より礼曹宛返翰書契写　224
八　京都本能寺の通信使にかかわる二つの記録　228

九　京都三条通中嶋町会所文書「天和・正徳・享保　朝鮮人来聘公用事」　231
十　膳所藩の儒者・松井原泉と朝鮮通信使　235
十一　近江・旧朽木村所在の通信使行列図　241
十二　丹後・峰山全性寺の通信使扁額　243

特論　尹東柱のいた頃の同志社　247

一　戦時下思想統制の強化と同志社での左右の対立抗争　249
二　一九四〇年代の同志社の変貌と尹東柱の編入学　255
三　一九四〇年代京都と同志社大学の朝鮮人学生　265

あとがき　279